

マンジャロ皮下注 2.5mg アテオス  
 マンジャロ皮下注 5mg アテオス  
 マンジャロ皮下注 7.5mg アテオス  
 マンジャロ皮下注 10mg アテオス  
 マンジャロ皮下注 12.5mg アテオス  
 マンジャロ皮下注 15mg アテオス

## 【この薬は？】

販売名	マンジャロ皮下注 2.5mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 2.5mg ATEOS	マンジャロ皮下注 5mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 5mg ATEOS	マンジャロ皮下注 7.5mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 7.5mg ATEOS
一般名	チルゼパチド Tirzepatide		
含有量 (1キット:0.5mL中)	2.5mg	5mg	7.5mg

販売名	マンジャロ皮下注 10mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 10mg ATEOS	マンジャロ皮下注 12.5mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 12.5mg ATEOS	マンジャロ皮下注 15mg アテオス Mounjaro Subcutaneous Injection 15mg ATEOS
一般名	チルゼパチド Tirzepatide		
含有量 (1キット:0.5mL中)	10mg	12.5mg	15mg

## 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

### 【この薬の効果は？】

- ・ この薬は、GIP/GLP-1 受容体作動薬と呼ばれる薬で、週1回の投与で効果が持続するように製剤的な工夫をした注射薬です。
- ・ この薬は血糖値が高くなるとインスリンの分泌を促進し、またインスリンの作用を改善することによって血糖値を下げます。
- ・ 次の病気と診断された人に、処方されます。

#### 2型糖尿病

- ・ この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

### 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

○次の人は、この薬を使用することはできません。

- ・ 過去にマンジャロ皮下注アテオスに含まれる成分で過敏症(かびんしょう)のあった人
- ・ 糖尿病性ケトアシドーシス状態(吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸)の人、糖尿病による昏睡状態の人または昏睡状態になりそうな人、1型糖尿病の人
- ・ 重い感染症にかかっている人、手術などの緊急の場合

○次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。

- ・ 重い胃不全麻痺など重度の胃腸障害のある人
- ・ 過去に膵炎(すいえん)にかかったことがある人
- ・ 低血糖をおこすおそれのある次の人
  - ・ 脳下垂体機能に異常のある人、副腎機能に異常のある人

- ・ 栄養状態の悪い人、飢餓状態の人、食事が不規則な人、食事が十分に摂れていない人、衰弱している人
  - ・ 激しい筋肉運動をしている人
  - ・ 飲酒量が多い人
  - ・ 増殖糖尿病網膜症、糖尿病黄斑浮腫、急性期治療を要する非増殖糖尿病網膜症にかかっているまたはかかったことがある人
  - ・ 妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・ 授乳中の人
- この薬には併用を注意すべき薬があります。他の薬を使用している場合や、新たに使用する場合は、必ず医師または薬剤師に相談してください。
- この薬を使用する前に、インスリンによる治療が必要かどうかの確認が行われます。

## 【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

### ●使用量および回数

- ・ 使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。
- ・ 通常、成人の使用量および回数は、次のとおりです。

	開始量	維持用量
1回量	2.5mg	5mg
使用回数	週1回 皮下注射します。	

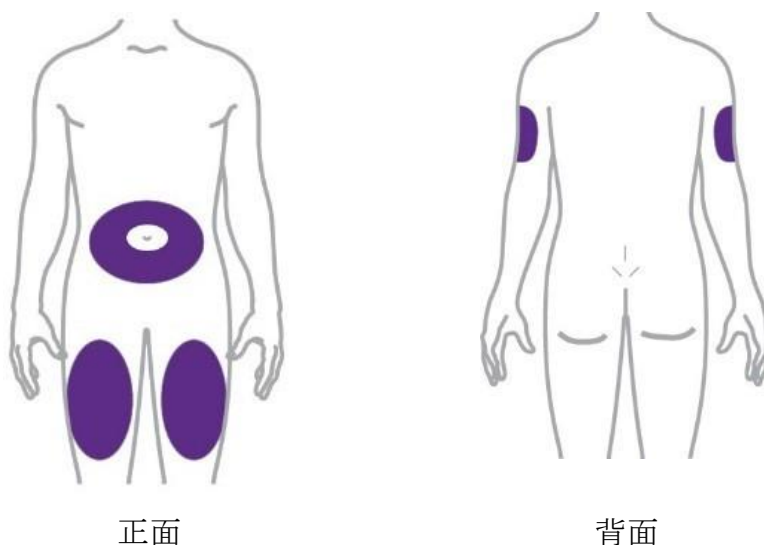
開始量を4週間注射した後、維持用量に増量します。

週1回5mgで効果不十分な場合には、4週間以上の間隔で1回2.5mgずつ増量し、最大週1回15mgまで増量されることがあります。

### ●どのように使用するか？

- ・ 週1回、同じ曜日に投与してください。
- ・ 医療機関において、十分な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。使用済みの器具は、主治医から指示された方法にしたがい、廃棄してください。具体的な使用方法など、詳しくは取扱説明書をお読みください。
- ・ 使用前に、注入器が壊れていないことまたは異常がないこと、薬液が無色からわずかに黄色の透明で浮遊物がないことを確認してください。
- ・ 腹部、大腿部（だいたいぶ）のいずれかに皮下注射します。操作方法の訓練を受けた方の手助けを受けて注射される場合は上腕部にも皮下注射できます。同じ部位の中で注射する場合は、毎回注射する場所を変えてください。
- ・ 静脈内および筋肉内に注射しないでください。
- ・ 1キットは1回限りの使用です。

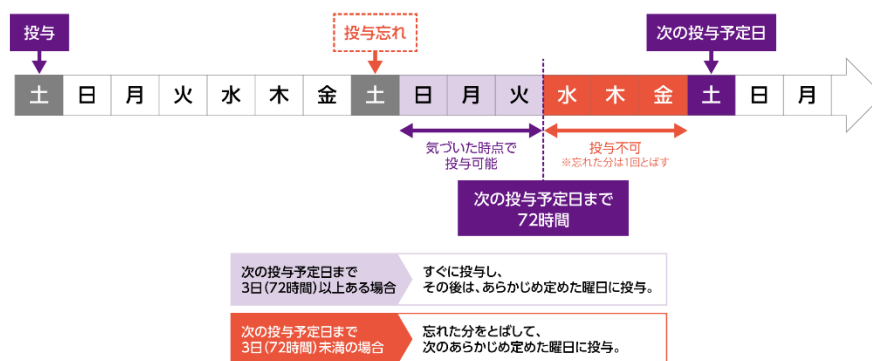
【投与部位】色のついた部位に投与する。



### ●使用し忘れた場合の対応

- ・ この薬は週1回、同じ曜日に投与します。
- ・ 投与をし忘れた場合は、次の投与予定日までの期間が3日間（72時間）以上であれば、気づいた時点ですぐに投与し、その後はあらかじめ定めた曜日に投与してください。次の投与予定日までの期間が3日間（72時間）未満の場合は投与せず、次のあらかじめ定めた曜日に投与してください。なお、週1回投与の曜日を変更する必要がある場合は、前回投与から少なくとも3日間（72時間）以上間隔を空けてください。
- ・ 決して2回分を一度に投与しないでください。

例)毎週土曜日に投与している場合



### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・ 異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

- ・ この薬はインスリンの代わりにはなりません。インスリンから切り替えることで、急激な高血糖（体がだるい、体重が減る、喉が渇く、水を多く飲む、尿量が増える）、糖尿病性ケトアシドーシス（吐き気、甘酸っぱいにおいの息、深く大きい呼吸）があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合には、ただちに医師の診断を受けてください。
- ・ この薬を使用する場合には、定期的に血糖、尿糖の検査が行われます。この薬を3～4ヵ月間使用して十分な効果が得られない場合は、他の治療薬へ変更されることがあります。
- ・ この薬は1週間に1回投与する薬であり、投与中止後も作用が持続するので、副作用の発現や血糖値に気をつけてください。異常を感じたら、ただちに医師または薬剤師に相談してください。
- ・ この薬を使用するにあたっては、注射法や低血糖症状への対処法などについて、患者さんまたは家族の方は十分に理解できるまで説明を受けてください。

### ・ 低血糖症状：

脱力感、強い空腹感、冷汗、動悸（どうき）、手足のふるえ、意識が薄れるなど

低血糖症状があらわれた場合の対応：

- ・ 通常は糖質を含む食品や砂糖をとってください。
- ・  $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤（アカルボース、ボグリボース、ミグリトール）を併用している場合は、ブドウ糖をとってください。
- ・ スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤またはインスリン製剤と併用した場合、低血糖症状がおこりやすくなるため、医師の判断で、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤の飲む量やインスリン製剤の注射する量が減らされることがあります。低血糖症状の一つとして意識消失をおこす可能性もありますので、スルホニルウレア剤、速効型インスリン分泌促進剤またはインスリン製剤と併用する場合には、必ず家族やまわりの方にも知らせてください。
- ・ 高所での作業や自動車の運転など、危険を伴う作業に従事しているときに低血糖をおこすと事故につながるおそれがありますので、特に注意してください。
- ・ 急性膵炎（すいえん）（初期症状として、嘔吐（おうと）を伴うお腹の激しい痛みなど）があらわれることがあります。このような症状があらわれた場合は、使用を中止し速やかに医師の診断を受けてください。
- ・ 胃腸障害があらわれた場合、急性膵炎の可能性を考慮し、必要に応じて画像検査などによる原因の精査が行われることがあります。
- ・ この薬を使用中に甲状腺に関連した症状（くびに触れると硬いしこりがあるなど）があらわれた場合には、この薬を処方した医師に相談し、専門医の受診について指示を受けてください。
- ・ この薬を使用中に過度の体重減少がみられた場合は、この薬を処方した医師に相談してください。
- ・ 胆石症、胆のう炎、胆管炎または胆汁うっ滞性黄疸があらわれるおそれがあります。

すので、腹痛などの腹部症状がみられた場合には、医師に相談してください。必要に応じて画像検査などによる原因の精査が行われることがあります。

- 急激な血糖コントロールの変化に伴い、糖尿病網膜症があらわれたり、悪化したりすることがあります。視力の低下、視野が狭くなるなどの症状があらわれたらすぐに医師に伝えてください。
- 下痢、嘔吐が続くことで脱水になり、急性腎障害があらわれるおそれがあります。適度な水分を補給し、症状が続く場合には医師に相談してください。
- 血圧低下（脱力感、めまい、ふらつきなど）があらわれることがありますので、異常を感じたら医師または薬剤師に相談してください。
- 妊婦または妊娠している可能性のある人は、この薬を使用せず、インスリンを使用するため、医師に相談してください。
- 授乳している人は医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

## 副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、それぞれの主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、それぞれの重大な副作用ごとに記載した主な自覚症状のうち、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。

このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

重大な副作用	主な自覚症状
低血糖 ていけつとう	お腹がすく、冷汗が出る、血の気が引く、疲れやすい、手足のふるえ、けいれん、意識の低下
急性膵炎 きゅうせいすいえん	吐き気、嘔吐、激しい上腹部の痛み、背中の痛み、お腹にあざができる、お腹が張る
胆嚢炎 たんのうえん	発熱、寒気、白目が黄色くなる、右上腹部の痛み、吐き気、上腹部が張った感じ、嘔吐
胆管炎 たんかんえん	発熱、白目が黄色くなる、右上腹部の痛み、皮膚が黄色くなる
胆汁うっ滞性黄疸 たんじゅううったいせいおうだん	白目が黄色くなる、皮膚が黄色くなる、尿の色が濃くなる、体がかゆくなる
アナフィラキシー	全身のかゆみ、じんま疹、喉のかゆみ、ふらつき、動悸、息苦しい
血管性浮腫 けっかんせいふしゅ	唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる、喉がつまる感じ、息苦しい、声が出にくい

以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並び替えると次のとおりです。  
これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	発熱、寒気、冷汗が出る、疲れやすい、けいれん、体がかゆくなる、ふらつき
頭部	意識の低下
顔面	血の気が引く、唇・まぶた・舌・口の中・顔・首が急に腫れる
眼	白目が黄色くなる
口や喉	吐き気、嘔吐、喉のかゆみ、喉がつまる感じ、声が出にくい
胸部	動悸、息苦しい
腹部	右上腹部の痛み、上腹部が張った感じ、お腹がすく、激しい上腹部の痛み、お腹が張る
背中	背中での痛み
手・足	手足のふるえ
皮膚	お腹にあざができる、皮膚が黄色くなる、全身のかゆみ、じんま疹
尿	尿の色が濃くなる

## 【この薬の形は？】

販売名	マンジャロ皮下注 2.5mg アテオス	マンジャロ皮下注 5mg アテオス	マンジャロ皮下注 7.5mg アテオス
形状			
	薬剤（液体）の入った容器と注射針を 注入器にセットした1回使い切りのキット		
性状	無色～微黄色～微褐色の澄明 またはわずかに乳白光を呈する液		
内容量	0.5 mL / 1キット		

販売名	マンジャロ皮下注 10mg アテオス	マンジャロ皮下注 12.5mg アテオス	マンジャロ皮下注 15mg アテオス
形状			
	薬剤（液体）の入った容器と注射針を 注入器にセットした1回使い切りのキット		
性状	無色～微黄色～微褐色の澄明 またはわずかに乳白光を呈する液		
内容量	0.5 mL / 1キット		

## 【この薬に含まれているのは？】

有効成分	チルゼパチド
添加剤	リン酸水素二ナトリウム七水和物、塩化ナトリウム、塩酸、 水酸化ナトリウム

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・ 凍結を避けて冷蔵庫など(2～8℃)で光を避けて保管してください。凍結した場合は、使用しないでください。
- ・ 室温で保管する場合には、外箱から出さずに保管し、21日以内に使用してください。30℃を超える場所で保管しないでください。
- ・ 子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・ 絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・ 余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

### ●廃棄方法は？

- ・ 使用済みの本品については、医療機関の指示どおりに廃棄してください。



## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・ 症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・ 一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社：日本イーライリリー株式会社 (<https://www.lilly.co.jp>)

日本イーライリリー医薬情報問合せ窓口

Lilly Answers (リリーアンサーズ)

電話番号：0120-245-970

受付時間：8時45分～17時30分

(土、日、祝日、その他当社の休業日を除く)

販売会社：田辺三菱製薬株式会社 (<https://www.mt-pharma.co.jp>)

くすり相談センター

電話：0120-331-195

受付時間：9時～17時30分

(土、日、祝日、会社休業日を除く)

時間外お問合せ窓口：注入器に関するお問合せのみ受付

電話番号：0120-245-970

受付時間：平日17時30分～22時00分

土・祝日8時45分～22時00分

(日曜日は受け付けておりません)